

二面・PKO法「見直し」を粉碎せよ
三面：この時代をどう見据えるか
四面：日本経済の現状⑥

東京上野郵便局私書箱 180 号
郵便振替：00590-0-20004
(関西) 大阪港郵便局私書箱 40 号
郵便振替：00940-1-132778

Digitized by srujanika@gmail.com

米日帝国主義の朝鮮軍事介入をゆるすな

反安保闘争の再建を



第25回 爺ヶ崎夏祭り

官房長官・梶山は、八月八日の日経連セミナーで講演し、「朝鮮半島で何かあったときが一番大変だ」、南北が統一した場合に「南は疲弊する。疲弊した補給はどこを持つてくるか。かつて植民地にした日本よ、賠償してくれと言わない保障はない」朝鮮から武器をもつた「偽装難民が紛れ込んだらどうするか」「彼らには（日本）国内に組織がある。北と南の。それが内紛状態になつたときに、日本の自衛

五六千人規模の日米共同軍事演習が、日本海で行われようとしている。これは、朝鮮民主主義人民共和国（共和国）の「体制崩壊が近い」などという米中央情報局（CIA）筋の観測などに基づいて、状況によっては朝鮮への軍事介入を狙う演習だと見間違いない。そこでは、この春に締結された日米「物品役務融通協定」（ACSA）がさつそく適用され、「米軍に燃料や兵器の部品を供給する後方支援」が自衛隊によつて展開されることになるという。

有罪判決というアメとムチで屈服を迫るうとしている。人民のたたかいの抑え込みに必死である。

これに対し沖縄は、九月八日、基地の整理・縮小と日米による民族差別をはつきりと問題にし、日本国家からのこの秋には、沖縄の米軍基地のための土地の一層強権人民のたたかいと連帶して、この企みを粉碎していく。

「日米安保共同宣言」体制と

中
紀

万六千人規模の日米共同軍事演習が、日本海で行われようとしている。これは、朝鮮民主主義人民共和国(共和国)の「体制崩壊が近い」などという米中尖端情報局(CIA)筋の観測などに基づいて、状況によっては朝鮮への軍事介入を狙う演習だと見て間違いない。そこでは、この春に締結された日米「物品役務融通協定」(ACSA)がさつそく適用され、米軍に燃料や兵器の部品を供給する「後方支援」が自衛隊によつて展開されることになるという。

ぶられるわが国支配階級は、沖縄に上程されようとしている。沖縄は、「本土」(ヤマト)のプロレタリアート・人民には、それが求められているのである。隊はどう戦えるのか」「米軍がもうものを考えてもらいたい」と語り、「有事立法」の必要性を強調するとともに、「沖縄の基地化に私の政治生命を賭けて、(約三千人の地主の使用期限が切れる)来年五月は乗り切りたい」と締めくづた。そこには、在日を含む韓国・朝鮮人にに対する敵意を扇動して、朝鮮への米帝との共同軍事介入、敵階級にとって焦眉の課題である「有事立法」とりわけ沖縄米軍基地の維持強化を実現しようとする意志がある。

沖縄人民のたたかいに連帯し、
「特別立法」を粉碎せよ

9・6 「軍用地特別立法」に反対し、 新しい反安保行動をつくる 実行委員会結成集会

のこのような悪辣な本音が通用する時代ではないし、われわれはそれを許してはならない。

ところで、梶山の「政治生命を賭けて」とは、決して大げさな表現ではないであろう。わが国の支配階級にとって日米安保体制は考へられないからである。

昨年の少女レイプ事件を契機とする沖縄の怒りは、米軍にだけなく、より以上に米軍基地の七五%も沖縄に押しつけてきた日本政府に向かつた。太田沖縄県知事は、米軍基地のための土地強制使用を正当化する代理署名などの手続きを拒否した〇一五年までに沖縄の米軍基地を全廃する「アクションプログラム」を日本政府に提案。この四月から、楚辺通信所の知花

こうした事態に驚愕した米帝国主義は、沖縄の基地機能を基本的に確保するため、「普天間基地の全面返還」を目玉とする沖縄人民への懷柔策を打ち出してきた。とはいえ、それも並や岩国基地（山口県）へというように基地機能を移転するに過ぎず、しかも「日米安保共同宣言」に沿つた軍事力の再編・強化とともになう形で実施しようとしているのである。

こうした情勢の中で、沖縄の「県民投票」は大きな意味をもつ。

第一に、米軍基地地位協定に対する沖縄人の態度が、厳然たる数字として明らかになるからである。

【県民投票】にあらわれる 沖縄の自決権を断固支持する

第二は、人民が仔議、布議などを媒介とせずに自己の意志を直接示すということは、行動をとも

らわれる

権を断固支持する

なわない意志表示のレベルであるとはいえ、それ自体がブルジョア民主主義国家への挑戦という意味を孕んでいるからである。しかも、原発の是非を問う住民投票のひろがりにも見られるようだ、これは押しとどめる第三に、沖縄が、民族の意志で、しかも合法的に、表明することのできる手段を手にしたことである。

沖縄がどのような道を選択していくのか、誰にも分からぬ冲縄の支配層は、日本政府に対して、沖縄人民の怒りを背景にしながら、米軍基地の撤去と並んで「国際都市形成整備構想」へと向かって、沖縄に対する歴史的差別を批判の支援を引き出し、多国籍企業を推進軸とするアジアの資本主義の動きである。

【3面につづく】

【六六六六六六】

8・13 15 金ヶ崎夏祭り、大盛況

八月十三～十五日の三日間、大阪金ヶ崎において第二十五回金ヶ崎夏祭りが同実行委員会の主催によって大々的に開催された。

今年の夏祭りのスローガンは「ひとつ輪、許すな差別! 野たれ死に!」。これは、阪神大震災発生以降の震災特需で増加し続いている仕事も頭打ちになり、高齢の仲間を中心に新たなアフレ地獄が押しつけられていたことや、今年一月の東京都による新宿駅西口地下通路での段ボールハウス強制撤去に頭著に現れているような全国各地で頻発している野宿労働者への叩き出し攻撃・差別襲撃への怒りを体現したものである。

会場である三角公園の中に赤旗が翻る巨大なヤグラが仲間自身の手で建てられ、いやがおうでも祭りの気分を盛り上げる。また、公園を開むようにして立看板が設けられ、支援

と警察の阿吽の呼吸で闇から闇へと葬り去られた。今回、「正義の警察官グループ」を名乗る内部告発もあり、大蔵省も形式だけは再びやらざるをえなくな

共闘団体のアピールと並んで、

釜日労は写真とともにこの今年上半期のたたかいの軌跡を紹介した。金ヶ崎からも一週間の派遣体制でたたかれた新宿での段

ボーラーハウス強制撤去実力阻止闘争、四月の兵庫県・西ノ宮での初の被災地労働争議の大勝

利、名古屋・笠島における右翼

ヤクザの敵対から全協労働運動

を実力防衛してかちとられた笠

島反失業闘争、「特別清掃」(特

掃)拡大・通年化にかけた大阪城公園での連続野営闘争などなど。その時のこと思い出してどうか、仲間たちは食い入るように写真に見入り、仲間同士の武勇伝に花が咲く。

今年も、釜日労をはじめ諸団体の凝った屋台が並んだ。釜日労は、恒例の焼きイカとビール

という夏らしい組み合わせ。泉州沖に空港をつくらせない住民連絡会の仲間は天プラで勝負。

その他、韓國のお好み焼きチ

奏、曾野恵子さんをはじめとす

た。

仲間も続出した。

釜日労は、この夏祭りの地平

に立つて引き続き高齢者殺し

と知れたパチンコである。そ

の額たるや九四年度予算七千

三兆千億円、実際の同年度租

税收入五十四兆円と比べれば

その巨大会分かるというも

のだ▼店に五十億、七十億をかけるという大型・豪華

の専用機(C-R機)登場によるギャンブル性の高まり。

これらがブームに火をつけたようだ▼しかし、その成長

化、プリペイドカード導入との時代に自己の存在を誇示す

べく仕事を増やしたという方が正確だろう▼パチンコは

れつきとしたギャンブルだ。それは誰も(よほどのマニア)を除いて機器を購入しての

めり込みはしないのを見ても明らかだ。それが楽しいゲー

PKO法「見直し」を粉碎せよ

派兵部隊の本格的武力行使に道ひらく

税金の正の方針による日本の政治

番外編

今年も、釜日労をはじめ諸団体の凝った屋台が並んだ。釜日労は、恒例の焼きイカとビール

という夏らしい組み合わせ。泉州沖に空港をつくらせない住民連絡会の仲間は天プラで勝負。

その他、韓國のお好み焼きチ

奏、曾野恵子さんをはじめとす

た。

仲間も続出した。

釜日労は、この夏祭りの地平

に立つて引き続き高齢者殺し

と知れたパチンコである。そ

の額たるや九四年度予算七千

三兆千億円、実際の同年度租

税收入五十四兆円と比べれば

その巨大会分かるというも

のだ▼店に五十億、七十億をかけるという大型・豪華

の専用機(C-R機)登場によるギャンブル性の高まり。

これらがブームに火をつけたようだ▼しかし、その成長

化、プリペイドカード導入との時代に自己の存在を誇示す

べく仕事を増やしたという方が正確だろう▼パチンコは

れつきとしたギャンブルだ。それは誰も(よほどのマニア)を除いて機器を購入しての

めり込みはしないのを見ても明らかな

かわらず、国連米帝を頭目

</div

の混迷 分離 停滞 後退が躍著となり、それ以降明確に下り坂を転げ落ち、九〇年代の今日、国際共産主義運動がいつたん世界史的敗北を喫したことが鮮明となつた。

この敗北は、単に軍事的に帝國主義諸国に壊滅させられたというではなく、国際共産主義運動の内部に抱えた弱さ、幼稚さ等々の、また厳密な意味での生産諸力の国際レベルにおける未成熟の問題、すなわち共産主義社会を準備する物質的諸条件の問題なども含めて、百五十年近くにわたる国際共産主義運動のその思想・戦略を根本的に総括することを問うものとしてある。

この危機は、第一インター・ナショナル、第二インター・ナショナル

われわれは、来るべき次の歩みを国際共産主義運動の第三期と呼ぶことが、事態の本質を鮮明にするという点において良い明である。

第一期が、「共産党宣言」に始まる第一インターから第二インターを下手一九一七年のロシア社会主義政権の成立まで。

第二期は、ロシア社会主義革命の勝利から中国革命の勝利、アジア・アフリカ・ラテンアメリカの民族解放・社会主義革命運動の進撃、そしてインドシナ三國における米帝侵略軍の撃退によるインドシナ革命戦争の勝利をえて一九九一年のソビエト社会主義共和国連邦の崩壊に至る大いなる希望と幻滅の時代。

命への道は、社会主義の夢がいつたん崩壊してしまった今日、以前にも増して困難な状況をもたらしている。われわれがこれから歩み始めんとする道は、人の夢と希望が打ち砕かれた過去の共産主義運動を根底から総括し、ふたたび共産主義運動を全世界のプロレタリアート、被抑圧民族の希望の道として再確立し、文字通り世界大に、全世界的レベルにおいて社会主義、共産主義社会を建設せんとする事業としてある。

一九一七年ロシア革命以降の、人類史を画する共産主義運動の歴史は、一九四八年中國革命の勝利、一九七五—七六年のインドシナ半島（ベトナム、カンボジア、ラオス）における民族解放・社会主義革命の勝利という二つの頂点を押し上げ、全世界のプロレタリアート・被抑圧民族の解放に向けた唯一の希望として光り輝いてきた。

しかし、七五年の勝利もつかの間に、ベトナムと中國の戦争

のプロレタリアート・被抑圧民族の前にたち現れている。「時代の終焉」とはそれゆえ、賃金奴隸階級たるわれわれにとっては「資本主義から共産主義」にいたる過渡期の時代における共産主義運動の一サイクルが、大いなる経験と教訓、そして無惨な敗北を残しつつもいつたんそのサイクルを終え、次のサイクルに向けた始まりを準備すべき時代に至ったということである。

1 國際共產主義運動の世界史的敗北

論試< > 代考の見抜かれる方

また他方、社会主義社会のイメージを現在の帝国主義国における生産力の質を前提に考えるのも間違いである。有限の地球の資源を多く一部の国だけが無尽蔵に消費することを前提とした現在の帝国主義諸国と同じような生産力の発展の上に社会主義を開花させることはできまい。すでに、こういった有様のいふことは、環境破壊として差し迫った課題として登場している。われわれは、今までどおりの

やり方でいつたんは地に墜ち、
共産主義運動を維持すること
や、ましてこれ以上発展させ
ことを願うほどにオボチユ二
トに徹するわけにはいかない。
国際共産主義運動の第一期第
二期を現在の地平から総括し

第三期を切り拓くべく、その想・戦略・戦術の洗い直しをそ
座標軸に打ち建てなければな
ない。

1面から 反安保闘争の再建を

義的発展の中に独自の位置を確
保しようとしている。沖縄が、
自治権を求めるか、さらには独立
立をめざすかということは、多
分に日本政府の対応によるに違
いない。はつきり言えることは、
この間の沖縄の運動を主導して
きたのがこの支配層であつたこ

と、そしてこの状況は当面続くだろうということである。とはいえわれわれは、沖縄⁽¹⁾自決権を断固支持する。その中で多国籍企業の支配と対決するプロレタリアートの民族と国際を超えた団結を育んでいかなければならない。

ての役割を引き受けようとしていることである。

第三は、日帝の海外派兵が戦前の軍国主義的なものではなく、米帝との共同の政治に奉ずるものであることを、カンジニアなどで実証されていくことである。

第四は、このような事態の開に、戦前の軍国主義への回に警鐘を鳴らすことで展開してきた戦後の大衆運動が対応で

「平和は多国籍企業による搾取の自由でありそのための秩序のだということを粘り強く暴し、多国籍企業を推進軸とする資本主義の今日の発展に犠牲強いられている失業労働者、「国人」労働者、女性労働者をはじめとするプロレタリアート、人民のたたかいを組織し、国と国籍を越えた連帯と团结をしていくことが求められる。繩のたたかいと連帯し、日本本邦二村をもつて二つの

沖縄のたたかいに連帯し、口
米安保体制と対決する「本土」の
運動は、いざん深い停滞の中に
ある。「日米安保共同宣言」にお
ける事実上の支持が広がつてい
るのである。

体系に守られてきたブルジョアジーの多国籍の發展の道が「勝利」したことである。

第二は、冷戦終焉後、日本は保体制をはじめとする国際軍事体系が、多国籍企業の求める市場開放」「自由競争・ブルジョア民主主義を受け入れない「テクノロジイ支援」国家」を敵として照準定め、「地域紛争の抑制者」として

牽引してきた力が弱い結果的根柢が地に落ちたことである。まさに、政治基盤を体制側根こそぎ取り込まれる事態が進行してきたのである。

したがつて、「日米安保共宣言」体制に対する「支持」の流れを変え、これを根底から覆運動の道を開くには、国際反体制が守つている「自由」

沖縄のたたかいに即目的に同するだけでは、眞の連帯にならない。「本土」のプロレタアートの自己解放の道を切り抜くたたかいと結合して連帶よう。沖縄軍用地強制使用のめの「特別立法」を粉碎せよ。

問われる「本土」

沖縄のたたかいに連帶し、日本安保体制と対決する本土の運動は、いざん深い停滞の中にあっても、いざん深い停滞の中でもある。「日米安保共同宣言」における事実上の支持が広がっているのである。

その原因の第一は、戦後半世紀近く対抗してきた「社会主義」の旗を掲げる官僚專制と官僚資本主義が破産し、日米安保体制をはじめとする国際軍事体制をはじめるのである。

体系に守られてきたブルジョアジーの多国籍の発展の道が「勝利」したことである。

第二は、冷戦終焉後、日本は保体制をはじめとする国際軍事体系が、多国籍企業の求める市場開放」「自由競争・ブルジョア主義を受け入れない「テクノロジイ支援」国家」を敵として照準定め、「地域紛争の抑制者」として

牽引してきた力が弱い結果的根柢が地に落ちたことである。まさに、政治基盤を体制側根こそぎ取り込まれる事態が進行してきたのである。

したがつて、「日米安保共宣言」体制に対する「支持」の流れを変え、これを根底から覆運動の道を開くには、国際反体制が守つている「自由」

沖縄のたたかいに即目的に同するだけでは、眞の連帯にならない。「本土」のプロレタアートの自己解放の道を切り抜くたたかいと結合して連帶よう。沖縄軍用地強制使用のめの「特別立法」を粉碎せよ。

海自艦隊の韓国寄港をゆるすな

本組の定期購読を
申し込みは赤路社まで

